

# 天竜浜名湖鉄道 地域公共交通活性化・再生総合事業 (天竜浜名湖線市町会議)

20~22年度

鉄道の存続に向けて、天竜浜名湖鉄道の活性化と再生を総合的かつ一体的に推進するため、地域の現状や市民のニーズ等を把握した上で、交通事業者、関係機関、地域住民等、天竜浜名湖鉄道の発展を願う地域の主体が力を合わせ、効果的な利用促進策を展開します。

## 【天竜浜名湖線市町会議】

### ◎委員

浜松市、掛川市、袋井市、磐田市、湖西市、森町、静岡県

### ◎特別委員

豊橋市

### ◎オブザーバー

遠州鉄道、学識経験者、沿線の企業、高校、支援団体、地域住民

## 事業の概要(22年度)

### ①利便性の高い列車運行サービスの提供

浜松方面からの誘客のため遠州鉄道線と連絡する西鹿島駅での接続強化(乗換機会の増加)を図る。

### ②駅を核とした魅力の向上

天竜二俣駅は天浜線の基幹駅であり、観光目的の乗降者も多いことから、駅舎内装の改修を行うとともに、デジタルポスター掲示施設等を設置し、快適な待合空間の創造を図る。

### ③アクセス改善

天竜二俣駅にレンタサイクルを設置し、天竜二俣駅と市街地・観光施設のアクセス改善を図る。

### ④利用しやすい運賃体系

天浜線、遠州鉄道、JR東海の3社共通フリーキップの開発。



### ⑤観光イベントとの連携

天竜浜名湖線の全身である旧国鉄二俣線の開通70周年を記念し、記念行事やイベント、フォト・絵画コンテスト、ヘルシーウォーク等を実施する。また、駅舎等の文化財登録に係る記念イベントを開催する。

### ⑥マイルール意識の向上

平成22年3月15日に設立した、天浜線サポーターズクラブの円滑な活動と、会員数の増加を支援するため、ホームページ及び、会員募集チラシの作成。

## 22年度 導入への プロセス

○天竜浜名湖線市町会議は、天竜浜名湖鉄道の発足当時から、鉄道の利用促進を図るための方策等について協議することを目的に組織されていたものであり、事業の取組が円滑に行われた。

○天竜浜名湖鉄道では、21年度から「新経営計画」に基づき経営改善に取り組んでおり、利便性の高い列車運行サービスの提供や、鉄道のPR等の利用促進事業に対して、本事業を活用することにより、結果として会社の経営改善につながっている。

○20年度に実施したアンケートで、列車本数の増便の要望や、西鹿島において遠州鉄道から天浜線へと乗り継ぐ場合の、不便さを指摘する声が多数上がっていたことから、西鹿島駅での接続強化を図った。

○鉄道の利用促進を図るには、沿線地域との連携が不可欠であることから、天浜線サポーターズクラブの活動が有意義なものとなるように支援していく仕組みが必要である。

## 22年度 事業の 効果

### 利便性の向上

平成21年10月から平成22年9月まで実施した、実証運行については、利用者の認知度が高まり、今後の需要が見込まれるとの判断から、会社の自己負担による本格実施に至っている。

### マイレール意識の高揚

協議会が設立を支援した天浜線サポーターズクラブの会員数は544名に上り、沿線住民のマイレール意識の向上に効果があった。

## 次年度 以降

22年度の鉄道利用者数は、1,549,704人、対前年比98.4%となった。このため、更なる利用促進を図るため、事業の検証と見直しを進め、計画目標の指標である利用者数の増加を図る。

22年度をもって国庫補助が終了したことから、協議会において計画期間内の25年度までの支援について、事業の選択と集中、実施手法などの観点から検討を進める必要がある。